

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472401338	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園			
所在地	( 〒253-0071 ) 神奈川県茅ヶ崎市萩園1202			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年8月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者お一人お一人に笑顔で寄り添い、ご利用者様が居心地の良い、安心した生活の場となるよう創っていきと日々スタッフ間で話し合っています。また、生活支援の場でもあり、利用者と一緒に食事作り、清掃等手伝って頂いています。又デイサービスとの交流も盛んで、外出や、ドライブ等も随時行っています。スタッフの異動が少なく、ご家族様、ご利用者様双方と顔なじみの信頼関係を構築できている事でスムーズな介護が提供できています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年7月17日	評価機関 評価決定日	平成25年8月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の優れている点】**  
 ◇管理者と職員は日々話し合いながら、サービスの質の向上に努めている。特に利用者が五感の活性化を図る機会を重視しており、職員の提案で、玄関前の寛ぎのスペースに花壇を造り、また、初詣やイチゴ狩り、花見、あじさい鑑賞などに車いすの方も同行して、季節感や開放感を味わい家族からも喜ばれている。  
 ◇併設しているデイサービスとの交流も盛んで、7周年記念のイベントを合同で開催したり、両事業所の職員で作った喫茶コーナーで、利用者がお茶を楽しみ気分転換を図っている。又、近隣の方とカラオケ大会やビンゴゲームに興じ交流を楽しんでいる。  
 ◇運営推進会議で、地域の人に認知症への理解を深める取り組みをして欲しいとの要望があり、「認知症の方にやさしい地域の会」を発足させ、管理者が勉強会の講師を務めて活動を開始した。

**【事業所が工夫している点】**  
 ◇誕生日には、「日帰りツアー」「グルメツアー」「洋服プレゼント」の3種類の「お誕生チケット」を用意して、好みのものを選択できるよう工夫している。日帰りツアーで念願の箱根に旅行した利用者もいる。  
 ◇事業所の前庭にベンチを置き、寛ぎのコーナーを設けたり、家庭菜園で野菜を育て、外気浴を兼ねて自然と触れ合う機会を作っている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	さざなみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社経営理念・運営方針・事業所の理念と理念に対する介護の心得をつくり、職場に掲示し職員間で理念の共有実践に取り組んでいる。	・理念に「尊厳を大事にした、家庭的で温かい生活の場」を掲げ、スタッフは日々話し合って理念の実践に努めている。 ・職員にアンケートを実施して、理念の共有と職員間の意識の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方（自治会長等）より地域の催しを教えて頂き桜祭り、福祉祭り、浜降り祭、等の行事に誘い参加している。	・自治会に加入し、利用者と地域の運動会やお祭りに参加している。 ・事業所のイベントや餅つき大会に近隣の住民を招待し交流している。 ・散歩や買い物、習字、フラダンスにボランティアを、又近隣の中学生の職業体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の介護相談や民生委員らと認知症になってもやさしい地域に向けて進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入所人数・見学者等の報告や避難訓練についての報告を行い、会議でのご意見も取り入れている。	・自治会役員、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員、市の高齢福祉課の職員が参加して、2か月ごとに開催している。 ・意見交換での提案で、「認知症の方にやさしい地域の会」が発足し、管理者が講師役を務め、活動を開始している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの意見交換、情報交換をして協力関係をつくっている。	・市の担当者とは、運営推進会議のほか、個別の案件でアドバイスを仰ぐなど連携を密にしている。 ・「地域密着型事業所連絡協議会」で話題になった「地域の特性や実情」を市に伝え、今後の取り組みについても相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のケアについて研修、勉強会を通し又、身体拘束については正しい理解をし、職員間で共有実践に努めている。	・スタッフルームに「身体拘束排除宣言」を掲示し、研修で「身体的、精神的、環境的暴力」について学び、実践に努めている。 ・玄関は、不審者情報への対応と安全確保のため、家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、カンファレンスや申し送り等で介護者の言動が虐待に繋がる事例等をその都度伝え、見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等を通して、成年後見人制度について学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の訪問調査や契約時に、不安や疑問点を尋ね、解約時にはご利用者ご家族と十分話し合い（長期入院等）説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、利用者家族等の意見はミーティングや会議等にあげ反映に努めている。	・面会時や電話連絡の折、家族に利用者の生活状況を報告するとともに、意見や要望を聞いている。 ・年2回往診医の出席を得て家族会を開催して意見交換を行い、意見や要望は、検討して運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員から意見、提案、改善のコミュニケーションを心がけている。スタッフ会議や個人会議でも意見を聞いて、話し合っている。	・スタッフ会議やカンファレンスのほか、管理者は個別面談の時間を設け、又法人本部長が定期的に訪れて職員の意見や要望を聞いている。 ・職員の提案で、玄関前の寛ぎのスペースに花壇を造り、自然を楽しむようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年一回創業式典では社長賞、本部長賞、功労賞、等を設け表彰している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社研修センター主催の介護実践講座への参加や法人内外の研修を受ける等努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、ケアマネージャー等が同業者との交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが訪問調査を行い（入院中は病室で）、本人の話をよく聞き安心して頂ける様努め、ご家族からもご本人の特徴や不安等をよく聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時ご家族とのコミュニケーションを図り家族の思いや不安、要望などを尋ね良く話を聞き安心して頂ける様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体、精神症状について十分な話し合いをしている。グループホームがどのようなところなのか理解不十分な家族も居られ見学相談等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活の場としてご本人、ご家族から生活歴や背景、既往歴等を理解し家族やレクリエーションを通し職員は共同生活を支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子や個人記録を読んで頂いている。1か月毎に生活状況を送付し、不安や要望等のコメントを頂くなどして努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関係のある方にいつでも足を運んでくれる雰囲気作りに努め、馴染みの場所への外出、外食にはご家族の協力を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知人の来訪時には、お茶にて接待し、関係の継続を支援している。</li> <li>・馴染みの場所や思い出の場所への訪問の希望には、家族の協力を得、状況に応じて職員が同行している。</li> <li>・利用者から希望の多い馴染みの場所へは、年間行事に取り入れて出かけている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日頃より良く職員が観察し、職員が仲介する事で孤立せず関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた利用者の所に馴染みの職員が機会をつくって訪問している。又ご家族からも連絡を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の個性を大切にし、昔からの暮らし方希望、意向把握に努め、ご本人本位のケアに努めている。	・利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、暮らし方の希望や意向に添ったケアに努めている。 ・意思表示が困難な方には、声掛けのときの様子や表情から、意向を汲取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握を利用者本人やご家族から情報を収集する事で、これまでのサービス利用の経過等含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定、食事（水分）摂取、排便等少しの変化への気づきを大切に、日・夜勤者からの申し送り等で心身状態等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり観察をすることによりその方の課題が出てケアを職員同士で考え本人、家族、医療との連携によりカンファレンス、モニタリング、ケアプランの作成に繋げている。	・アセスメントとモニタリングの結果をもとに、カンファレンスを行ない、家族や医師の意見を入れて介護計画を作成している。 ・「生活状況報告書」の記録をもとに、通常3か月ごとに介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は気づきを大切にしている。他の職員読んで状態、情報を共有しケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化が見られた場合は医療連携24H体制もあり指示に従い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域包括、民生委員、自治会、家族代表にも参加して頂き支援の協力関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の訪問診療の実施があり主治医にご本人、ご家族から直接話し体調の不安等聴き適切な医療を受けている。	・通院は家族にお願いし、かかりつけ医の受診を支援している。家族が不都合な場合は、職員が代行している。 ・2週間ごとに訪問診療医の往診がある他、緊急時には24時間いつでも往診可能な体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が体調が悪くなった時や転倒時急変時24H連携が取れ指示を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の病院と連携しており随時状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族に状況を伝え、毎日の申し送りスタッフ会議等でケアの方法等を話し合っている。重度化した利用者には、終末期に向けてご家族はどう希望されているのか話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化し医療行為が必要になり食事が摂れなくなった場合、入院など退居してもらう方針を、入居時家族に説明して了解を得ている。</li> <li>・現状、医師の応援と家族の協力を得て、可能な範囲での支援に取り組んでいる。</li> </ul>	今後、看取りまで対応するとの法人の方針を具体化するため、医師・看護師との連携体制を整えるとともに、職員に対する計画的な研修に取り組まれることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時への訓練や研修は勉強会等で行っているが今以上に実践力をつけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については避難訓練を定期的に行っているが、全職員が適切に行動出来るよう身につける必要があり地域の自治会長、オーナー様にも声をかけている。(運営推進会議等にて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家主や地域の協力を得、利用者全員が参加して、年2回の防災訓練と避難訓練を行っている。</li> <li>・運営推進会議で、自治会にも協力を呼び掛けている。</li> <li>・水や食料は3日分の備蓄がある。</li> </ul>	夜間を想定した訓練が行われておらず、早急に訓練を計画し実施されるとともに、運営推進会議の議題として、地域との協力体制を強化することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居時に契約書で「安心と尊厳ある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また職員は自尊心を大切に言葉かけをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃より、利用者の尊厳とプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応を心がけている。</li> <li>・職員は入職時に守秘義務に関する契約書を提出している。</li> <li>・個人情報の書類は施錠のできる書庫に保管している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で毎日の過ごし方に洋服など自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切に、本人の希望に沿った支援に努めている。ベッドで休みたい希望があれば横になって頂く、外に行きたいという希望があればなるべく本人の言うタイミングに合わせて付き添い外に出られるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやお洒落の支援をしている。女性の利用者は毎日薄く化粧をされている方もいる。又、誕生会時には口紅をつけたりお洒落なものに着換えて頂く等している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は役割をもって頂き、準備や盛り付け片づけをしている。(野菜を切る方、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い・等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は職員と一緒にテーブル拭き、野菜の調理やお茶出し、盛り付け、食器拭きなど、できることに参加している。</li> <li>・職員は、利用者が会話をしながら食事を楽しめるよう配慮している。</li> <li>・誕生会では、ケーキと寄せ書きのプレゼントでお祝いをしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日行うことにより栄養摂取、水分摂取量をチェックし確保している。チェックに記入し状態や力等観察し変化に気づくようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔状態や本人の力に応じた口腔をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意尿意のない方には本人にさりげなく声をかけ、表情仕草から汲み取り納得の上、トイレへお連れし排泄パターンの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握して、必要な方には仕草や表情を観察して声掛けをし、トイレに誘導している。</li> <li>・トイレでの排泄を基本とし、入所時におむつだった方がリハビリパンツに改善した事例もある。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、医療機関と連携をとりながら飲食物の工夫や運動、下剤の調整等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人お一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴している。季節に応じてしょうぶ湯、ゆず湯にしたり楽しんで頂ける様支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は基本的に週2回であるが、失禁の際はその都度入浴できるよう支援している。利用者の状況に応じて、清拭や足浴を行うときもある。</li> <li>・入浴を好まない方には、「温泉に入りましょう」など声掛けを工夫して誘導している。季節の菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の観察から椅子や車椅子で傾眠されているご利用者には、居室で休まれる様声掛けしている。状況に応じて休息したり安心して眠られる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が副作用を詳しく話してくれ連携している。医療機関の主治医看護師からも薬の目的、副作用、容量について伝えてくれ症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、生活に張りを持って頂くよう個別の役割（家事）や利用者の楽しみ事（趣味）の支援をしている。職員同士アイデアを出し合い楽しみ事への支援に努めていきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出支援（初詣・イチゴ狩り・等）は出来ている。受診（眼科検診）の後、食事をして帰ってきたり、職員との外食の希望の機会をつくり出掛けられる様になってきている。	・初詣、花見、いちご狩りなど年間計画で外出行事を充実して、利用者が季節感や開放感を味わえるよう工夫している。 ・職員や散歩ボランティアと一緒に散歩やスーパーへ買い物に出かけたり、併設のデイサービスの喫茶コーナーでお茶を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理だが、自分の好きなものを買う時は、職員が同行し見守りしながらお金を一時所持し使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の返事や電話は何時でも出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場の為、ご利用者一人一人が気持ちよく居心地の良い環境づくりに努めている。生活感、季節感を取り入れた空間をつくり家族にもその要望を聞いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間は、採光や風通しに配慮し、明るく清潔に保たれている。</li> <li>・ソファ・カーテン、椅子を新調して、心地よく過ごせるようにしている。壁掛けのボードには、行事の写真を掲載し、食卓に花を飾って、家庭的な雰囲気を演出している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとソファがありTV、新聞、雑誌を読んだり、気の合ったご利用者同士思いおもいに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人や家族の希望を聞きながら使い慣れた物や好みの物が置かれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には使い慣れた整理ダンス、テーブル、椅子、テレビなどを置き、家族の写真、自作の習字を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。</li> <li>・居室の掃除は利用者と職員で行い、その人らしく過ごせるよう支援している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし「出来る事」「分かる事」を活かしスタッフミーティングやカンファレンスをしながら朝・夕の申し送りで体調の把握をし安心安全な生活の場のつくりをし生活出来る様支援している。		

事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
ユニット名	しおかぜ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社経営理念・運営方針・事業所の理念と理念に対する介護の心得をつくり職場に掲示し職員間で理念の共有実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方（自治会長等）より地域の催しを教えて頂き桜祭り、福祉祭り、浜降り祭、等の行事に誘い参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の介護相談や民生委員らと認知症になってもやさしい地域に向けて進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回入所人数見学者等の報告や避難訓練についての報告と会議でのご意見も取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの意見交換、情報交換をし協力関係をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃よりご利用者のケアについて研修勉強会を通し身体拘束については正しい理解を職員間で共有実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング、カンファレンスや申し送り等で介護者の言動が虐待に繋がる事例等をその都度伝え見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等を通して成年後見人制度について学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問調査や契約時は不安や疑問点を尋ね、解約時はご利用者ご家族と十分話し合い（長期入院等）説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り利用者家族等の意見はミーティングや会議等（ケアカンファ含む）にあげ反映に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員から意見、提案、改善のコミュニケーションを心がけている。スタッフ会議や個人会議にも意見を聞いて話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年一回創業式典では社長賞、本部長賞、功労賞、等を設け表彰している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社研修センター主催の介護実践講座への参加や法人内外の研修を受ける等努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、ケアマネージャー等が同業者との交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが訪問調査を行い（入院中は病室で）本人の話をよく聞き安心して頂ける様努めご家族からもご本人の特徴や不安等をよく聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時ご家族とのコミュニケーションを図り家族の思いや不安、要望などを尋ね良く話を聞き安心して頂ける様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要とされる」本人の身体、精神症状について十分な話し合いをしている。グループホームがどのようなどころなのか理解不十分な家族も居られ見学相談等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活の場としてご本人、ご家族から生活歴や背景、既往歴等を理解し家族やレクリエーションを通し職員は共同生活を支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日頃の様子や個人記録を読んで頂いている。1か月毎に生活状況を送付し不安や要望等のコメントを頂くなどして努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人と関係のある方にいつでも足を運んでくれる雰囲気作りに努め馴染みの場所への外出、外食にはご家族の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より良く職員がご利用者を観察し職員が仲介する事で孤立せず関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた利用者の所に馴染みの職員が機会をつくって訪問に行くようにしている。又ご家族からも連絡を頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の個性を大切にし、昔からの暮らし方希望、意向把握に努め、ご本人本位のケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握を利用者本人やご家族から情報を収集する事でこれまでのサービス利用の経過等含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定食事（水分）摂取、排便等少しの変化への気づきを大切に、日・夜勤者からの申し送り等で心身状態等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり観察をすることによりその方の課題が出てケアを職員同士で考え本人、家族、医療との連携によりカンファレンス、モニタリング、ケアプランの作成に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は気づきを大切にしている。他の職員読んで状態、情報を共有しケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化が見られた場合は医療連携24H体制もあり指示に従い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域包括、民生委員、自治会、家族代表にも参加して頂き支援の協力関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の訪問診療の実施があり主治医にご本人、ご家族から直接話し体調の不安等聴き適切な医療を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が体調が悪くなった時や転倒時急変時24H連携が取れ指示を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の病院と連携しており随時状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族に状況を伝え毎日の申し送りスタッフ会議等でケアの方向等を話し合っている。重度化した利用者には終末期に向けてご家族はどう希望されているのか話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時への訓練や研修は勉強会等で行っているが今以上に実践力をつけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については避難訓練を定期的に行っているが全職員が適切に行動出来るよう身につける必要があり地域の自治会長、オーナー様にも声をかけている。（運営推進会議等にて）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居時に契約書で「安心と尊厳ある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また職員は自尊心を大切にされた言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で毎日の過ごし方に洋服など自分の思いを表せるよう働きかけ自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切に本人の希望に沿った支援に努めている。ベッドで休みたい希望があれば横になって頂く、外に行きたいという希望があればなるべく本人の言うタイミングに合わせて付き添い外に出られるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやお洒落の支援をしている。女性の利用者は毎日薄く化粧をされている方もいる。又、誕生会時には口紅をつけたりお洒落なものに着換えて頂く等している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は役割をもって頂き準備や盛り付け片づけをしている。（野菜を切る方、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い・等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日行うことにより栄養摂取、水分摂取量をチェックし確保している。チェックに記入し状態や力等観察し変化に気づくようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意尿意のない方には本人にさりげなく声をかけ表情仕草から汲み取り納得の上、トイレへお連れし排泄パターンの支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、医療機関と連携をとりながら飲食物の工夫や運動、下剤の調整等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの希望やタイミングに合わせて入浴している。季節に応じてしょうぶ湯、ゆず湯にしたり楽しんで頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の観察から椅子や車椅子で傾眠されているご利用者には居室で休まれる様声掛けしている。状況に応じて休息したり安心して眠られる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が副作用を詳しく話してくれ連携している。医療機関の主治医看護師からも薬の目的、副作用、容量について伝えてくれ症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、生活に張りを持って頂くよう個別の役割（家事）や利用者の楽しみ事（趣味）の支援をしている。職員同士アイデアを出し合い楽しみ事への支援に努めていきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の外出支援（初詣・イチゴ狩り・等）は出来ている。受診（眼科検診）の後食事をして帰ってきたり職員との外食の希望の機会をつくり出掛けられる様になってきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理だが、自分の好きなものを買う時は、職員が同行し見守りしながらお金を一時所持し使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の返事や電話は何時でも出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場の為、ご利用者一人一人が気持ちよく居心地の良い環境づくりに努めている。生活感、季節感を取り入れた空間をつくり家族にもその要望を聞いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとソファがありTV、新聞、雑誌を読んだり気の合ったご利用者同士思いおもいに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人や家族の希望を聞きながら使い慣れた物や好みの物が置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし「出来る事」「分かる事」を活かしスタッフミーティングやカンファレンスをしながらか朝・夕の申し送りで体調の把握をし安心安全な生活の場のつくりをし生活出来る様支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ茅ヶ崎萩園

作成日

平成25年 8 月 20 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	今後、看取りまで対応するとの法人の指針を具体化するため、医師、看護師との連携体制を整えるとともに、職員に対する計画的な研修に取り組まれることが期待されます。	①体制が整った時点での医療連携加算の申請を行い、看取りの方向性で進める。 ②認知症の進行とともに看取りに至るプロセスの研修を数回に分け実施する予定である。	①当事業所での正看護師雇用の募集を行っており、採用が決まれば実施していく事となる。②認知症の理解やパーソンセンタードケア、西洋、東洋心理学等を中心に研修を実施していく。	①H25.8/19に第一回目の求人広告を実施する。 ②H25.9月8日より職員研修(数回)実施予定
2	35	夜間を想定した訓練が行われておらず、訓練を計画し実施されるとともに運営推進会議の議題として地域との協力体制を強化する事が望まれます。	①夜間を想定した訓練を実施し、夜間の人数でも避難できる体制に向けたシステムの構築を目指す。②地域との交流会を設け参加して頂きミモザ茅ヶ崎萩園へ気軽に立ち寄れる様体制を図る。	①2Fの方の避難場所の確保と、緊急連絡先の徹底を図る。(夜火気を使用不可) ②イベントを定期的に行っており近隣の方や自治会の方の交流会を今後も力を入れていく。	①10月に夜間想定での避難訓練を実施予定。②年3回地域との交流会を設けており1回目は6月に実施2回目は10月に実施予定3回目は12月に実施予定となる。
3		/	/	/	/
4		/	/	/	/
5		/	/	/	/

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。